

第一生命経済研レポートテーマ (2007年1～2月)

<p>2007年1月号 (通巻118号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・内外景気 ・金融マーケット ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・中小企業アイ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 ・マクロ経済空模様 	<p>ラストチャンス10年 日本経済～2007年の消費を読み解くキーワード～ 海外経済～見方が分かれる米金融政策～ 経済フローチャート～日本経済の現状と6ヶ月見通し～ 2007年のマーケットのテーマは“金利上昇” 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 2006・2007年度日米経済見通し 民間調査機関の経済見通し(2006年11月) ～「輸出」、「IT」、「消費」について見解が分かれる～ 内部統制からERM(全社リスク管理)へ ～内部統制をどう捉えるか⑨～ 英米型資本主義の興隆とその将来③ 中小企業にできること・地域編① 産業別利益動向 住宅着工 ～日本経済の足元チェック～</p>
<p>2007年2月号 (通巻119号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・内外景気 ・金融マーケット ・経済トレンド ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・中小企業アイ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 ・マクロ経済空模様 	<p>希望の持てる国への道筋 日本経済～景気回復が実感できる時期～ 海外経済～15年に亘り拡大局面が続く豪州経済～ 経済フローチャート～日本経済の現状と6ヶ月見通し～ 円高急伸をもたらすような金利差縮小は見込み難い 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 2007年から始まる家計の増税プラン 内部統制は企業の信頼性を高める活動そのもの ～内部統制をどう捉えるか⑩～ 英米型資本主義の興隆とその将来④ 中小企業にできること・地域編② 産業別利益動向 家計調査 ～日本経済の足元チェック～</p>

編集後記

年の暮れの取引先への挨拶にはカレンダーやダイアリーが付き物だった。時計や万年筆は身近な実用品として新入学や就職祝いに選ばれた。最近これら身の回りツールの役どころに少し変化が見られるように思う。スケジュールの確認も時間を見るのも他人への文通にしても携帯電話の機能を使えばひとまず間に合うことがその理由のひとつだろう。さらに携帯でインターネットの画面もテレビも見られるようになった。若い世代ほどこれで用を済ませる者が多いのではないかと。携帯電話は日常生活の一コマを確実に違ったものになっている。

一方でこの巨大商品は経済分析のかく乱要因にもなっている。たとえば機械受注統計では携帯電話機器が通信業からの「機械受注」としてカウントされる。このため昨年番号ポータビリティ制度の導入前には、旧機種受注が落ち込み設備投資の先行指標とみなされている機械受注の数値を一時的に押し下げる特殊要因になった。かたやメーカー側では新機種向け部品をあらかじめ見込んで仕込んだため、IT部門での在庫の数値を押し上げたと思われる。また、金融政策の判断材料として注目された消費者物価統計の基準改訂においては、携帯電話の割引通話料の取り扱いが思わぬ下方改訂の主因となった。

経済統計の手法にも改良の手が加えられてはいるものの、われわれの暮らしの環境はそれ以上の速度で変貌を遂げている。世の中が便利になるにつれ新たな「お騒がせ」が出現することにエコノミストは頭を悩ませる。

(H. U)